

1 ねらい

- ① 自分の適性や進路クラブ、職業調べを通して、将来の仕事について興味を持つことができる。→
【学習への主体的・創造的な態度】
- ② 職場体験に向けて、必要なスキルを高めたり、自分なりの課題を持って職場体験に臨んだりすることができる。→【問題解決の能力】
- ③ 職場体験を通して、その職場に馴染み、仕事のやりがいや苦勞を感じながら精いっぱい仕事に取り組むことができる。→【学習にかかわる技能・表現】
- ④ 職場体験から、自分なりの仕事観・将来観を持ち、自分の進路と重ね合わせて考えることができる。→【知識を応用し総合する力】

2 実践の概要

(1) 身近な人の職業の様子を調べよう

将来の夢、仕事に対しての関心を高めるとともに、職種ごとに、具体的にどのような仕事をしているか、どのような喜びや苦勞があるかなどを知るために、職業調べを行った。

☆教師の支援・具体的な手立て

調査の視点を明確にするためにワークシートを用意し、項目立てて調べることができるようにした。

(2) 自分の適性を知り、職場体験に向けてスキルアップをしよう

「進路クラブ」を用いて適性検査を行い、自分の持っている適性が明らかになった。この後、自分の適性や将来の夢をもとに、職場体験の行き先の希望調査をした。体験とはいえ、実社会に出るということを意識づけ、生徒自身が電話で体験の依頼・打ち合わせのために職場を事前訪問した。訪問の前には、敬語の使い方や電話の応対といったスキルを高めるグループ学習を行った。



〈消防署で職場体験をする生徒〉

☆教師の支援・具体的な手立て

グループでスキル学習を行い、正しい言葉遣いをするだけでなく、さわやかな態度でお客様の応対することなどの大切さに気付かせた。

(3) 職場体験の目標を決め、体験をしよう

自動車整備工場に体験に行く生徒が、「専門的な知識や技術を身に付ける」と、目を輝かせて話をしてきた。意欲の高さがうかがえたが、その活動を通して、精神的なことも学んでほしいと考え、目標を考える時間を設けた。それぞれが違う体験をする条件のもと、アドバイスをした。その結果、「仕事を正確にこなす技術」といった技術的なものだけでなく、「笑顔であいさつ」「お客様の立場に立って、誠意を持って行動する」などの目標も挙げられた。

3日間の体験では、初日は緊張した面持ちだったものの、2日目からは次第に笑顔が見られ、「自分から仕事を探して動くことができた」と感想を述べる生徒も多く出てきた。

☆教師の支援・具体的な手立て

様々な体験業種を交えて話し合いをすることで、自分とは違った視点で目標をアドバイスしあえるようにした。

(4) 職場体験の振り返りをしよう

体験中に書かせた日記をもとに、パソコンソフト「職体ナビ」を用いてまとめを行った。代表者は文化祭で発表し、それぞれが学んできた成果を伝え合う場を持った。

3 実践を振り返って

2年生になったときには、働くことは、「将来の夢」として漠然と捉えている生徒が多かった。本実践で適性検査や職場体験を行ったあとは、「簡単ではあるが実社会の仕事を体験し、はたらくということにやりがいを見出し、苦勞を乗り越えていきたい」と生徒が見られた。生徒たちが、1年後に控えた上級学校への進学とともに、自分の近い未来と遠い未来(人生の様々なゴール)を見据えながら、確固たる仕事観や将来観を身に付けられるような活動を続けていきたい。